

## ＜学術変革領域研究（A・B）の創設について＞

令和2（2020）年度から、新たに、次代の学術の担い手となる研究者の参画を得つつ、多様な研究グループの有機的な連携の下、様々な視点から、これまでの学術の体系や方向を大きく変革・転換させることを先導することなどを目的とする研究種目「学術変革領域研究」を創設します。

### （創設の背景）

平成20（2008）年度に創設した「新学術領域研究（研究領域提案型）」は、関連の研究領域の研究者を幅広く巻き込んだグループ研究を支援し、我が国の学術水準の向上・強化につながる新たな研究領域を発展させることを目的として、これまでの12年間で約250研究領域を採択しました。

グループ研究を支援する本研究種目は、研究領域を通じた異分野の研究者との議論による新たなアイデアの創出、新たな課題・テーマに対し、分野を超えて体系的に取り組む体制の構築、研究領域に若手研究者を参画させることによる研究分野の活性化や、人材育成など、研究種目としての成果を上げているという認識の下、より一層の成果を上げるために、

- ・研究当初から大規模な研究領域の形成を行う研究者の支援に加え、小規模・少人数でより挑戦的かつ萌芽的な研究に短期的に取り組み、その成果を踏まえて大規模な領域研究に取り組む研究者を支援することが必要。
- ・これまでの学術の体系や方向を大きく変革・転換させることを先導する研究領域を創成するためには、関係する幅広い研究者の参画を一層促すことが必要。
- ・我が国の研究力向上のため、中期的な視点から10年後に新興・融合領域を先導することを期待し、次代の学術の担い手となる研究者の参画を一層促すことが必要。

といった点から、「学術変革領域研究」を新たに創設します。

### （研究種目の概要）

新たな研究種目の名称は「学術変革領域研究」とし、次代の学術の担い手となる研究者（45歳以下の研究者<sup>1</sup>）の積極的な参画により、これまでの学術の体系や方向を大きく変革・転換させる研究領域の創成を目指すものであることを本研究種目の目的とします。また、助成金額や研究期間等に応じて、「学術変革領域研究（A）」と「学術変革領域研究（B）」の二つの区分を設置します。

「学術変革領域研究（A）」は、新学術領域研究（研究領域提案型）の後継となる区分であり、学問分野に新たな変革や転換をもたらす、既存の学問分野の枠に収まらない新興・融合領域の創成を目指すもの、又は当該学問分野の強い先端的な部分の発展・飛躍的な展開を目指すものを対象とします。また、研究領域の今後の発展を見据え、多様な研究者の参画を促すために公募研究を充実させるとともに、若手研究者育成の充実を図ります。

「学術変革領域研究（B）」は、より挑戦的かつ萌芽的な研究に小規模・少人数で短期的に取り組み、将来の「学術変革領域研究（A）」への展開などが期待されるものとし、学問分野に新たな変革や転換をもたらす、既存の学問分野の枠に収まらない新興・融合領域の創成を目指すものを対象として、新たに設けます。また、研究領域の中期的な発展を見据え、グループ研究を先導し、マネジメント能力を育成するために、領域代表者は次代の学術の担い手となる研究者とします。

<sup>1</sup> 交付年度の4月1日現在の年齢。令和2（2020）年度公募では、令和2（2020）年4月1日現在で45歳以下の研究者。